（共有資料）

2025.05.15

第2回かながわSDG s
パートナーミーティング
～本業とつながるSDGs ワークショップ～

主催：神奈川県政策局

いのち・未来戦略本部室 SDGs推進グループ

運営：株式会社eiicon

本資料のご利用にあたって

本資料は、2025年5月16日開催のワークショップにご参加いただいた皆様、およびその所属企業内での情報共有を目的としております。

皆様へのお願い

1. 営利目的でのご利用はお控えください。本資料の一部または全部を、商用利用、再配布、販売などに利用することはご遠慮ください。
2. 第三者への無断での配布はご遠慮ください。本資料は参加者の皆様およびその所属企業内での学習・情報共有にご活用ください。上記以外の方への転送や公開はご遠慮ください。

何卒ご理解ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

今年度のプログラム概要＜事業目的＞

事業目的	本事業では、かながわSDGsパートナー登録企業による、SDGsに資する取組のより一層の展開を支援するとともに、パートナー間の交流を促進し、継続的な連携を生み出すことで、パートナー制度の価値向上と、県内SDGsのさらなる拡大を図る。
注力ポイント	自社の課題解決に留まらない、社外（クライアント、業界など）への波及・展開までを見据えた活動を、県内企業が自発的に取り組むことを最終的なゴールに見据え、支援を実施。今年度事業については『先進的事例の創出』と『県内企業に向けたSDGsの取り組みに関する機運醸成』を目指すことでパートナー制度の土壌づくりに繋げていく。

今年度のプログラム概要＜支援内容＞

SDGｓ活動を進めるために
『かながわSDGｓパートナーミーティング』を通じた
パートナー間の連携をサポートします。

パートナー企業に求める テーマの設計支援

SDGｓにおける自社の取り組む目的・ゴールの整理から、挑戦したい事業テーマ（事業開発や課題解決等）を共に整理・可視化。

パートナー企業の マッチング支援

挑戦したい事業テーマに対して、
必要な技術・ノウハウなどを持った企業と
マッチングを実施。

マッチング後の 伴走・フォロー支援

2社の連携が持続的に進むように
連携モデルのブラッシュアップを
通じた伴走・フォロー支援を実施。

本日のワークショップでは

自社のSDGs活動を正しく振り返り、

今後の取り組みの言語化をサポートします！

本日のスケジュール

1. オープニング・神奈川県庁・京セラ様からのご挨拶
2. SDGs ワークショップ
3. 振り返り・今後のご案内
4. 名刺交換会

講師ご紹介

株式会社eiicon：Quality of Open Innovation Officer（QOO）

下薗 徹 Toru Shimozono

神奈川県小田原市生まれ。横浜市立大学卒 国際会計学専攻。
メーカー系IT企業、コンサルティングファームを経て、ベンチャー系上場企業の経理財務部にて海外子会社管理、連結決算、開示業務を経験。その後、CVC部門の新規立ち上げに関わり、ベンチャー出資、オープンイノベーション、新規事業開発支援の責任者として従事。経営企画部、社長室にてIR対応、事業戦略立案等を歴任した後にTwo Birds Consulting株式会社を創業し独立。
2024年より株式会社eiicon Quality of Open Innovation Officerに就任。ベンチャー企業企業の事業開発支援をはじめ、複数社でのオープンイノベーション創出支援、地方自治体での地域イノベーションエコシステムの創出に深く関わる。

＜職歴＞
・三菱電機情報ネットワーク株式会社：法人営業→経理（2013～2018）
・株式会社シグマクシス：戦略コンサルタント（2018）
・Hamee株式会社：決算開示、IR、CVC、新規事業開発等（2018～2023）
・Two Birds Consulting株式会社 創業（2023～）
・株式会社eiicon：Quality of Open Innovation Officer（2024～）

ワークショップの進め方

01 全体の進め方の説明・グループごとの自己紹介

02 SDGs活動を推進する上で大切なことを理解する

03 本業とSDGs活動の接続ポイントをつくる

04 ワークショップ振り返り

ワークショップの進め方

01 全体の進め方の説明・グループごとの自己紹介

02 SDGs活動を推進する上で大切なことを理解する

03 本業とSDGs活動の接続ポイントをつくる

04 ワークショップ振り返り

SDGs活動を推進する上で大切なことを理解する

【✐ワーク①】

早速ですが・・・

なぜ自社・団体はSDGs活動を期待すると思いますか？

経営理念等も見返しながら、自分なりの考えを手元のワークシートに記入してみましょう

【✐ワーク②】

続いて、

SDGs活動に難しさを感じているポイントはどこですか？

SDGs活動を進める上で、うまくいかない・壁にぶつかりやすいと感じるものを
手元のワークシートに書き出してみましょう

SDGs活動を推進する上で大切なことを理解する

【👥ディスカッションタイム】

ワークシートに記入した内容をもとに

グループディスカッションしてみましょう！

グループ内で出た「SDGs活動が難しい理由」を、テーブルの紙にまとめてください

【ディスカッションを進めるにあたり】

1. **正解はありません**：自社らしい答えを考えていく場です。
2. **傾聴と対話を大切に**：他社の視点や言葉に耳を傾けてください。
3. **発言は自由に：**発言・共有を歓迎します。
4. **リスペクトの気持ちを**：違いを楽しむ姿勢で臨みましょう。

SDGs活動を推進する上で大切なことを理解する

成果が見えにくいため評価されない

日々の業務で精一杯で、SDGsに取り組む余裕がない

やる意味は感じているが、ビジネスとの接点が見つけづらい

本業との結び付けが難しい

こんな声が多く上がったのではないでしょうか・・

ワークショッププログラム

01 全体の進め方の説明・グループごとの自己紹介

02 SDGs活動を推進する上で大切なことを理解する

03 本業とSDGs活動の接続ポイントをつくる

04 ワークショップ振り返り

SDGs活動を推進する上で大切なことを理解する

SDGs活動を推進するために必要な2つの土台

「何のために取り組むのか」と「どう成果を描くか」の2軸が揃ってはじめて、組織の行動が揃い、価値ある推進が生まれます

01 | 方針の策定と発信（Why/Who）

- **優先順位と方針**を明確にすることで、現場の迷いをなくす
- 社内外に「SDGsをなぜやるのか」の納得感が生まれる
- 方針がないと、施策が断片化し「やって終わり」になる

共通認識を生み
組織と社会をつなぐ“軸”をつくる

02 | 定性と定量のゴールを持つ（What/How）

- **定性ゴール**：「なぜ・何のために取り組むのか」
- **定量ゴール**：「どれくらい・いつまでに成果を出すのか」
- 2つが揃うと、行動がぶれず、社内外の信頼も生まれる

意味”と“目標”がセットで揃え
行動と評価を噛み合わせる

“やっているように見せる”SDGsは信頼されない — SDGsウォッシュを防ぐために

**SDGsへの関心が高まるほど、“とりあえず言うだけ”の活動が誤解や不信を招く。
だからこそ、誠実さと整合性のある取り組みこそが、信頼を得る唯一の道になる。**

SDGsウォッシュは なぜ起きるのか？

- 表明が先行し、実行が追いついていない（例：方針だけ／スローガンだけ）
- 本業との接点が曖昧なまま、ロゴや施策だけを並べてしまう
- 社内に共通認識がなく、現場と経営の間に断絶がある

“やっているように見せる”構造ができてしまう理由

ウォッシュが もたらすリスク

- 顧客や取引先からの信頼失墜
- 投資・採用・メディアなどにおける批判の高まり
- 他社の本気の取り組みを相対的に価値毀損してしまう

**「誰にも得がない」
「SDGs自体の信用を下げる」構造**

“やっているように見せる”SDGsは信頼されない — SDGsウォッシュを防ぐために

「SDGsを語ること」＝「取り組む責任が発生する」こと。
信頼されるためには、“整合性を持って語れる構造”が不可欠です。

必要な観点		説明ポイント
方針と優先順位が明確か？	→	なぜ取り組むのか／ 誰のためかが説明できるか？
社内外に伝わる言葉になっているか？	→	スローガンではなく、 行動と接続しているか？
成果の“粒度”と“意味”が整理されているか？	→	成果＝出したい価値が一貫しているか？
ステークホルダーの声を踏まえているか？	→	外からの期待・ 視点を受け止めているか？
実行に移せる設計になっているか？	→	誰が、どのように、 いつ動くのかが描かれているか？

自社の“本業”とSDGsをつなぐ、意味のある接点を見つける

SDGsは“始める”ものではなく、“見直して言語化する”もの

SDGs活動の本質は、企業や団体がすでに果たしている価値や目指す方向性を“再定義”し、
組織内外に共有可能な形に整えることにあります。
まずは、“すでにやっていること”の意味を捉え直すことから始めましょう。

課題 接点のポイント	課題 見直しポイント	効果 問いかけの例
“社会的な意味”を 捉え直す	業務プロセスや商品・サービスのなかに社会的意義は含まれていないか？	誰にとって、どんな困りごとを 解決できているか？
関係者からの要請に 応える視点で整理する	サプライヤーや取引先、地域からの期待にどう応えている？	「ESG調達」「多様な人材受け入れ」など関係者から、どんな期待や視線を感じているか？
中長期的な“事業方向”に SDGsを重ねてみる	自社が進みたい方向に、どの目標や社会課題が関係しうるか？	「脱炭素」「地域密着」「資源循環」など自社の方向性として、どんな可能性が考えられるか？

本業とSDGs活動の接続ポイントをつくる

戦略検討の第一歩：「取り組む課題」と「得たい成果」をどのくらいの大きさで描くか？

事業としての見通しを持つには、
「社会課題」と「成果」のサイズ感が鍵になります

社会・業界課題を
適切に大きく描く

生み出す成果を
適切に大きく描く

本業とSDGs活動の接続ポイントをつくる

抽象すぎても実行できず、具体すぎても広がらない―事業課題を考えるうえでの“ちょうどよさ”とは？

「政策的に重要なテーマ」「大きな社会課題・事業課題」だけでは、実証実験・社内実装への道筋が見えにくく、現場が想像できない／実装条件が不明確だと、動きづらいのが本音です

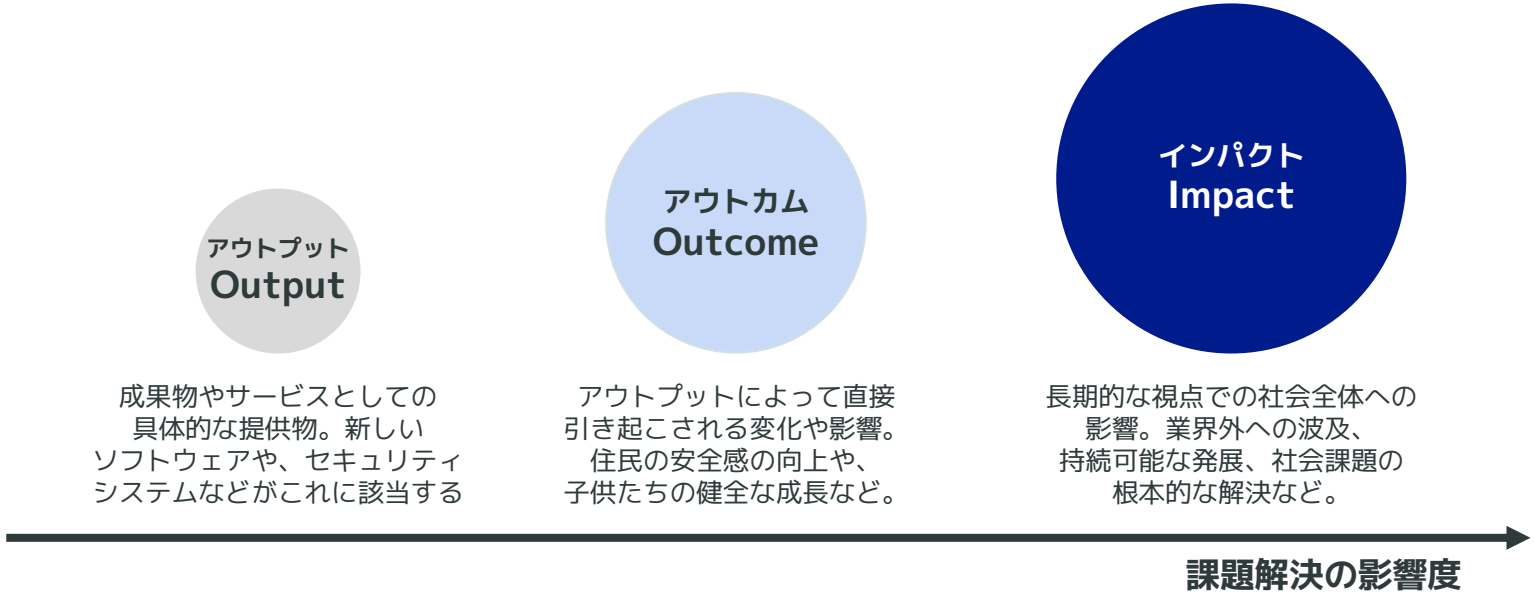
＜社会課題の例：子育て＞

課題粒度 **大**	**子育て支援**	子育て支援は幅広い範囲に影響を及ぼすため、どこから手をつけるべきかを特定するのが難しい。このため、より具体的なサブ課題に分解して考えることが求められる。
課題粒度 **中**	**こどもの防犯・見守りのデジタル化**	防犯や見守りのデジタル化は、具体的なソリューションの提案が可能であり、様々な技術やアプローチで解決を試みる余地がある。
課題粒度 **小**	**保育園の玄関セキュリティ**	保育園のセキュリティシステムのような小粒度の課題は、具体的な機能やサービスがはっきりしており、委託・発注案件や企業個別の案件として収束してしまう。

本業とSDGs活動の接続ポイントをつくる

「この施策がやりたい」から考えると視野が狭くなる―“何を変えたいのか”から逆算する思考を持とう

単発イベントや製品開発の話にしない。
“それによって何が変わるのか”を意識することで、成果の波及範囲が大きくなります



本業とSDGs活動の接続ポイントをつくる

委託や施策ベースではなく自社・団体の“将来像”から逆算して考える——成果設定の粒度を整える視点

この図は、“取り組みたいテーマが、事業としてどの段階にあるか”を見極めるためのマップです。
左下ほど現場実行に近く、右上ほど戦略や将来像の構想に接続します。
中段〜右上に進めていくには、“成果の出し方”や“波及の仕組み”の整理が必要になる点が重要です。

課題粒度	アウトプット Output	アウトカム Outcome	インパクト Impact	
	構想段階の抽象領域 ※※テーマ自体の社会的重要性は高いが、成果の出し方や自社での役割が未定義のため、事業戦略に組み込むには整理が必要			課題粒度 大
	単発施策の導入検討領域	実行しながら構想を育てる領域	事業戦略に接続する構想領域	課題粒度 中
	施策単体の実行領域	小規模施策の改善・検証領域	成果はあるが拡張しにくい領域	課題粒度 小

課題解決の影響度

本業とSDGs活動の接続ポイントをつくる（15:40～）

【✐ワーク③】

これらのポイントや事例を踏まえ、

既存事業・活動の周辺環境の棚卸を行ってみましょう！

自社・団体にとって重要なステークホルダーを、
手元のワークシートに記入してみてください

本業とSDGs活動の接続ポイントをつくる

【✐ワーク④】

書き出したステークホルダーに関わる

社会課題を書き出してみましょう！

悩んだ場合は、お手元のSDGsの169のターゲットも参考にしてみてください

本業とSDGs活動の接続ポイントをつくる

【✐ワーク⑤】

書き出した社会課題のうち、本業との関連性が特に高く、

解決した際のインパクトが大きなものを選定し、

自社・団体としてどのような取組ができそうか考えてみましょう！

自社・団体単独では実現できない内容でもＯＫです

【👥ディスカッションタイム】

ワークシートに記入した内容について

1人1分程度でグループ内で発表をお願いします！

発表後、グループ内でのコラボレーション可能性についてディスカッションしてみましょう

【ディスカッションを進めるにあたり】

1. **正解はありません**：自社らしい答えを考えていく場です。
2. **傾聴と対話を大切に**：他社の視点や言葉に耳を傾けてください。
3. **発言は自由に：**発言・共有を歓迎します。
4. **リスペクトの気持ちを**：違いを楽しむ姿勢で臨みましょう。

ワークショッププログラム

01 全体の進め方の説明・グループごとの自己紹介

02 SDGs活動を推進する上で大切なことを理解する

03 本業とSDGs活動の接続ポイントをつくる

04 ワークショップ振り返り

ワークショップ振り返り

以下について、振り返りシートに各自記入をお願いします

- 今日の気づき
- 自社・団体の今後のSDGs活動で活かせそうなこと
- 他者の話で印象に残ったこと
- 今回の気づきを組織内の誰に話したいか？
- 今後共にSDGs活動に取り組んでみたい企業・団体・業界

本日のスケジュール

1. オープニング・神奈川県庁・京セラ様からのご挨拶
2. SDGs ワークショップ
3. **今後のご案内**
4. 名刺交換会

今年度のプログラム概要＜支援内容＞

SDGｓ活動を進めるために
『かながわSDGｓパートナーミーティング』を通じた
パートナー間の連携をサポートします。

パートナー企業に求める テーマの設計支援

SDGｓにおける自社の取り組む目的・ゴールの整理から、挑戦したい事業テーマ（事業開発や課題解決等）を共に整理・可視化。

パートナー企業の マッチング支援

挑戦したい事業テーマに対して、
必要な技術・ノウハウなどを持った企業と
マッチングを実施。

マッチング後の 伴走・フォロー支援

2社の連携が持続的に進むように
連携モデルのブラッシュアップを
通じた伴走・フォロー支援を実施。

今後のご案内（直近のスケジュール）

スケジュール

※場合によってオンラインでの面談を実施させて頂くことがあります。

※日程が確定次第、周知させて頂きます。

～5/30（金） 支援コース エントリー期間	6/2（月）～6/6（金） 選考期間	6/9（月） ホスト企業 採択通知	仮）6月中旬 キックオフ打合せ

応募条件

①「かながわSDGsパートナー会員企業」であること。
※これから登録する方も応募可能です。会員登録に関しては神奈川県HPをご参照ください。
②本事業に熱量高く参画出来る企業であること。

参加費

・無料

採択者数

・共創支援コース：5社程度
・マッチング支援コース：25社程度

今後のご案内（第3回パートナーミーティング）

EVENT

- **開催日時**：2025年7月31日（木）　午後
- **開催場所**：未定
- **開催内容**：支援企業からのリバースピッチ／共創のポイントについて学べる講義
  参加企業同士でのネットワーキング

皆さまのご参加お待ちしております！

（共有資料）

2025.05.15

第2回かながわSDG s
パートナーミーティング
～本業とつながるSDGs ワークショップ～

主催：神奈川県政策局

いのち・未来戦略本部室 SDGs推進グループ

運営：株式会社eiicon